足利結手染紫第十八編序

おゝそ書作る者の用ゐる根骨奪胎といふことあり。こゝに故人の佳作を種とし。男と女とし女を男とし。或は左を右とし。右を左と做しの類。その取捨の巧拙ありて。全くこゝろぶ物とゐるあり。已が物はこゝろにして。他人の傾向七分あるいはその劣まることゝいへども。然るふるの足利結手染紫女が佳作の妙案とそのまゝを擒てやまと文の幼童に解易うするを俗云ふ。

ものさきをしるまゝ。作ものゝ人鳥滸がましくもとりくゝの中まれ。ゐぬ出灵浮脱怪誇邪悪切り撃ちのことをきゝ雑へて今様めきのゝ。更ふ作者の形容に生ぶ。力の奮勇を焼うゝて形ちくする俳諧者流。とその傾を一ツふまるも。世の流行ふるさゞといふん

安政三丙辰歳孟春　東八　松亭金水誌

五十八翁
方有後
静思堪喜
亦堪嗟
持盃祝願
無他語
慎勿頑愚
似汝爺

○六條御所
○三會姫の
新女僧

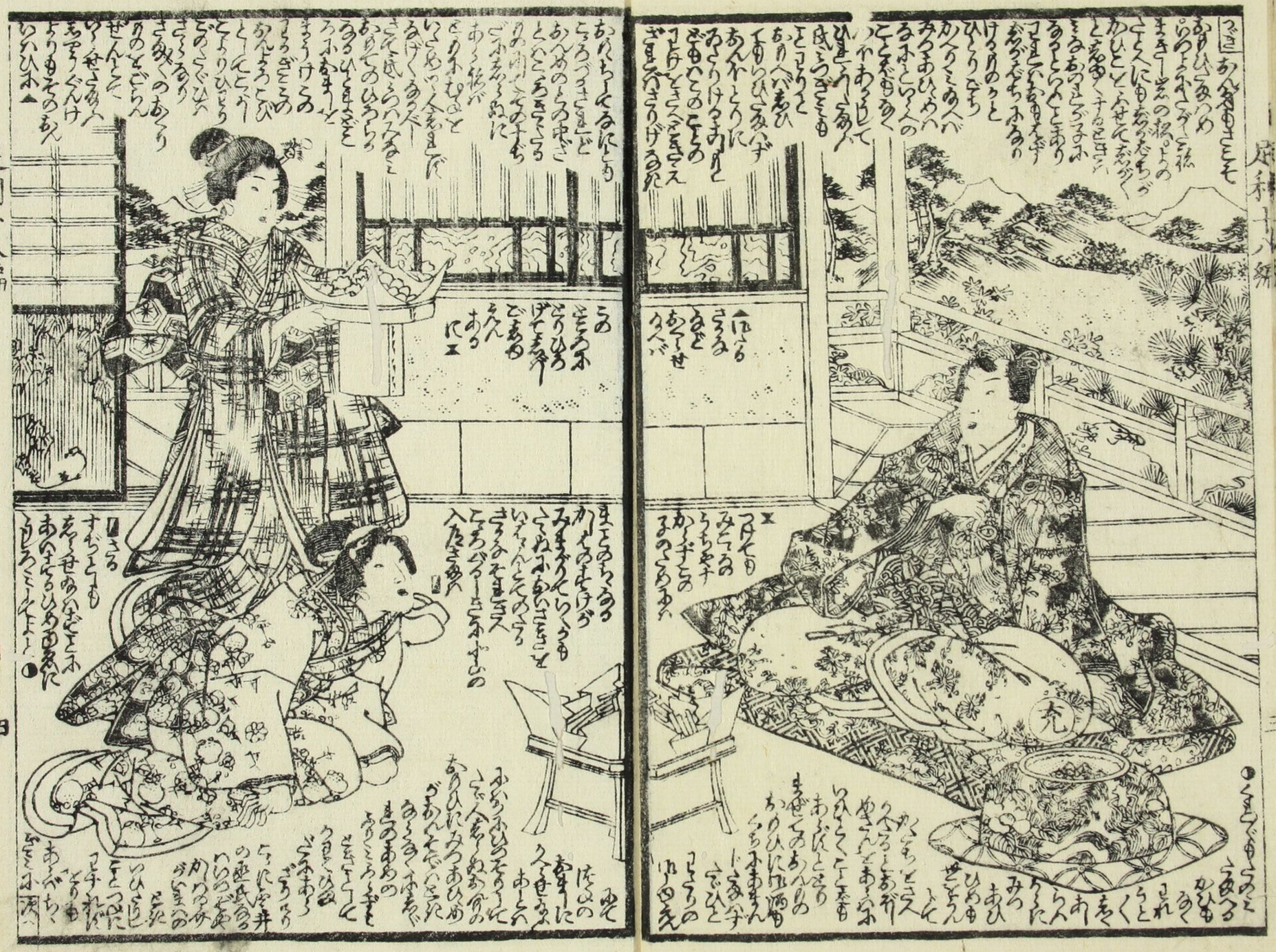
氏充公

○白容之助

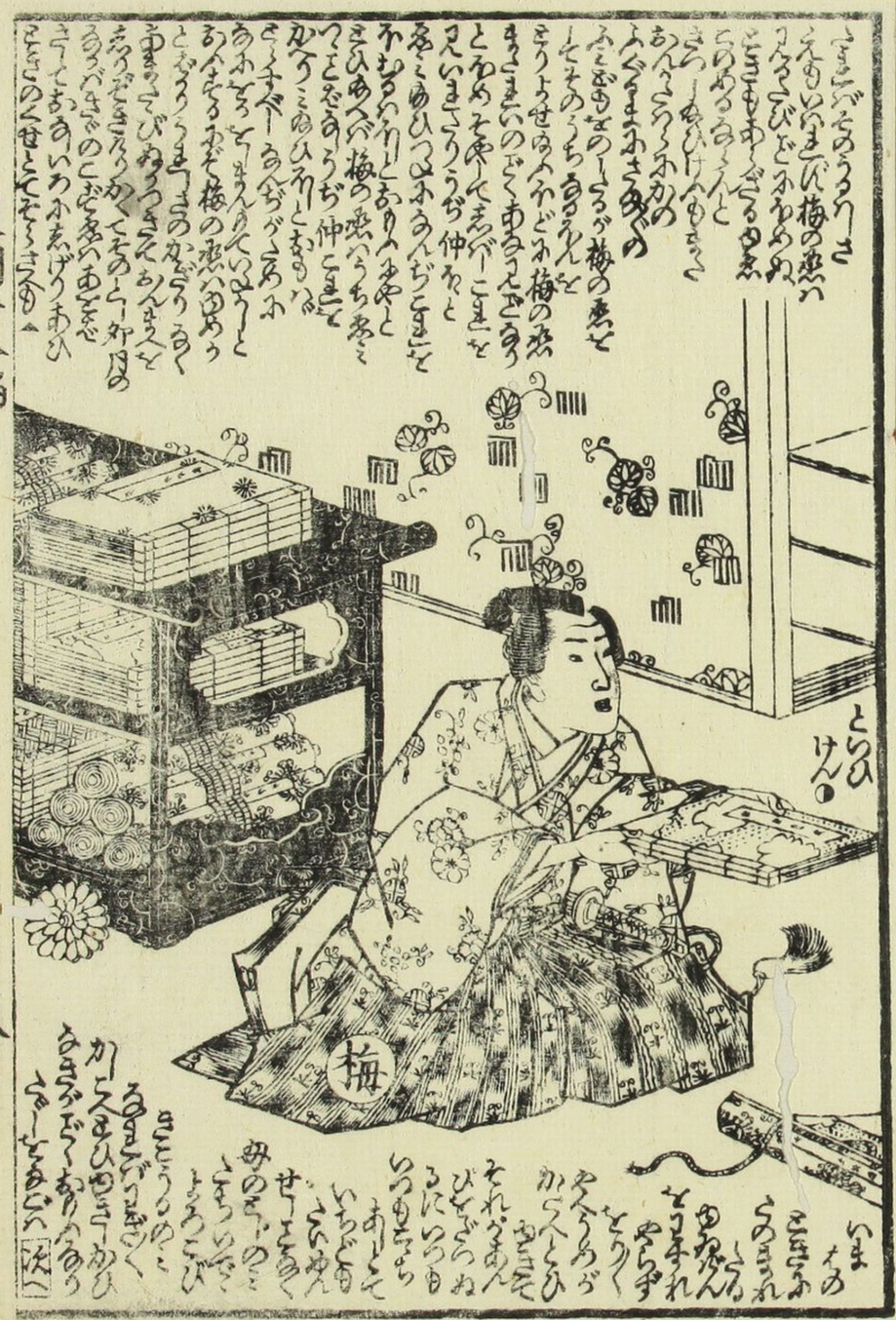
いくぢなしの
松もと
へん

○三會の
乳母
中野

十八夜
中
中ざと



井


梅

井
梅

琴
井
丹

井
梅

國貞画　金水作

己丁春錦橋堂新板

御口中藥　固齦散　大包代百錢　小包代拾錢
一ぬかぬ　一うがえ　一うみ血
一血のつる　一大ぶくれ
能効
用法うがいのこと

清淨　精製　白妙　一包代拾二錢
粉はいろはとを五色方角に分ちの中へ
まぜ一ぱく入を用ればなり
白くあらそふ事あたの

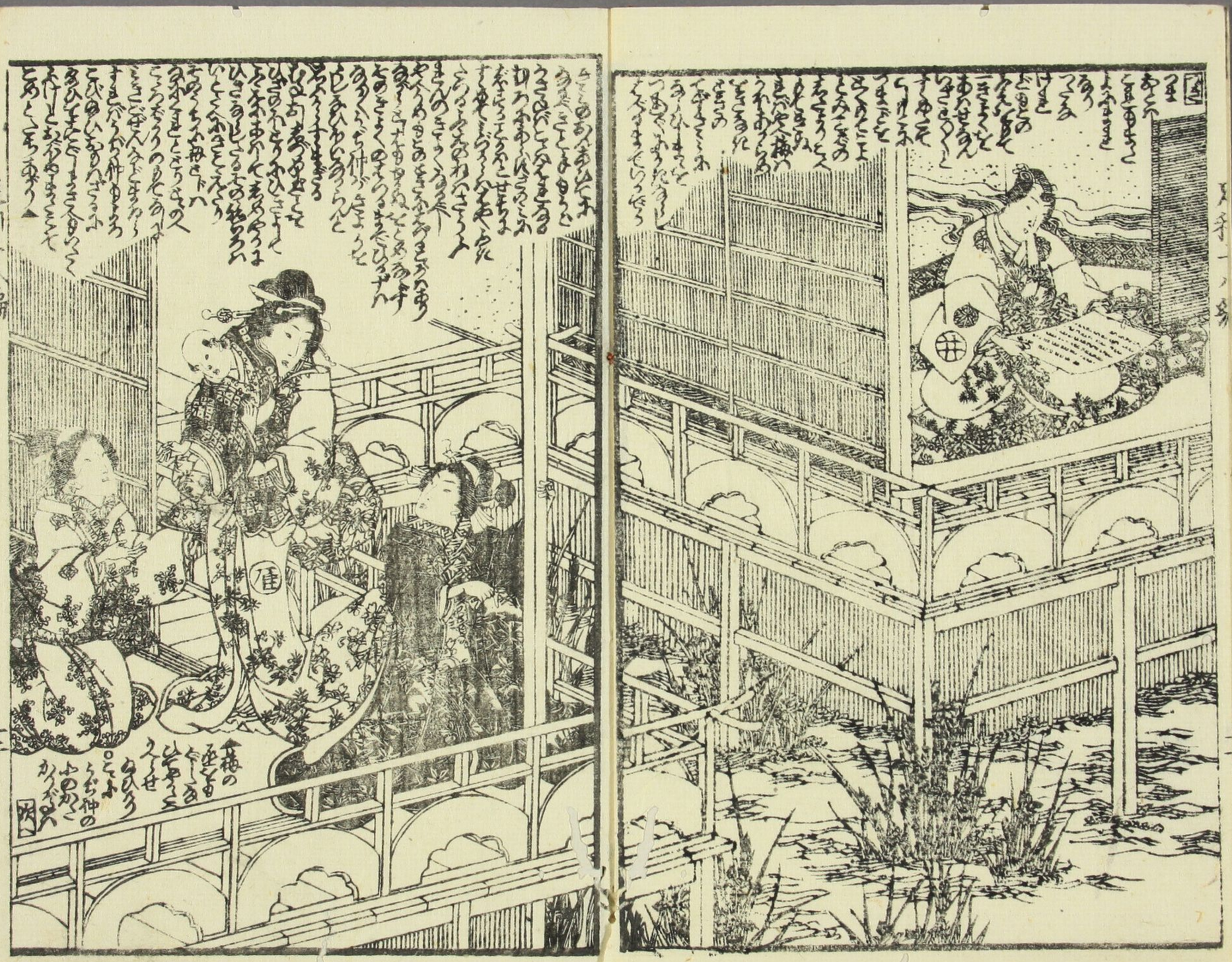
寐小便の太奇藥　一包代百錢
いろはとを一ぱく服すれば大人
小兒男女とも一回にて効あり東方之

浮寐鳥朧蓮　五編空中樓花咲作　揃一陽齋豐國画
蔦葉丸重錦　五編万亭應賀作　揃一陽齋豐國画
英雄五分　五編万亭應賀作　揃一陽齋豐國画
雛鶴笹湯壽　紅摺　山東菴京山作　大本一冊一陽齋豐國画
花用文素箱　中本形　山東菴　全一冊　京山作

地本　江戸中橋廣小路　錦繪　山田屋庄次郎

金沢八景図

下谷寛

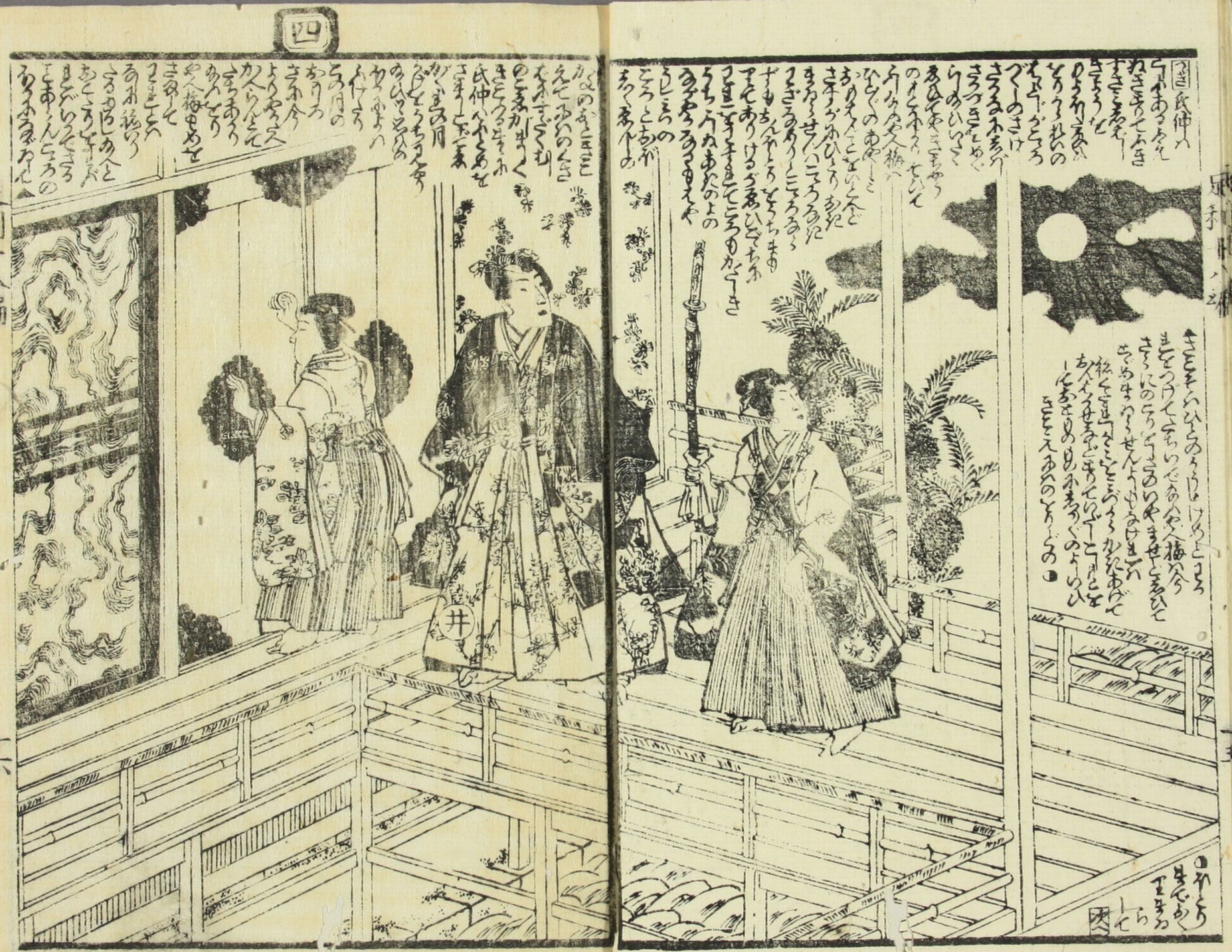


井
秋
高
充

元
西

中
か

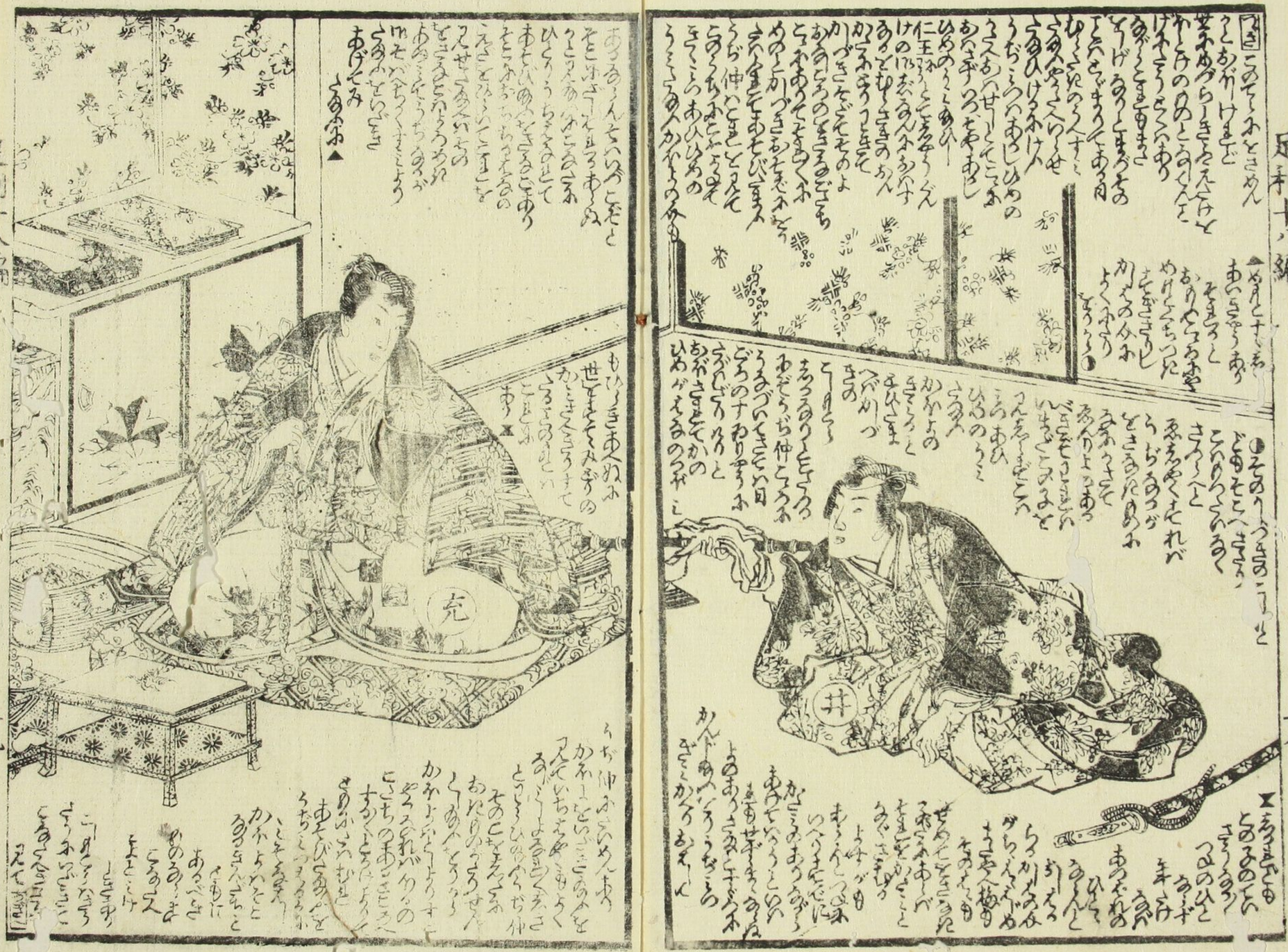
重
井
母


井

柏

井

惟



丁巳初春錦橋堂新板目錄

教草如房形氣 十七編 十八編 山東菴京山作 梅蝶樓國貞画

名天見場 五拾三驛 松編 雪住作
吾妻鏡 六編 芳虎画

清所奉公 江戸見紀 八編 九編 万亭應賀作 猛齋芳虎画

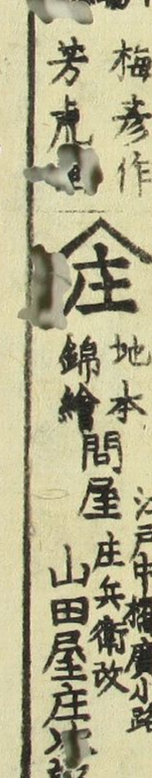
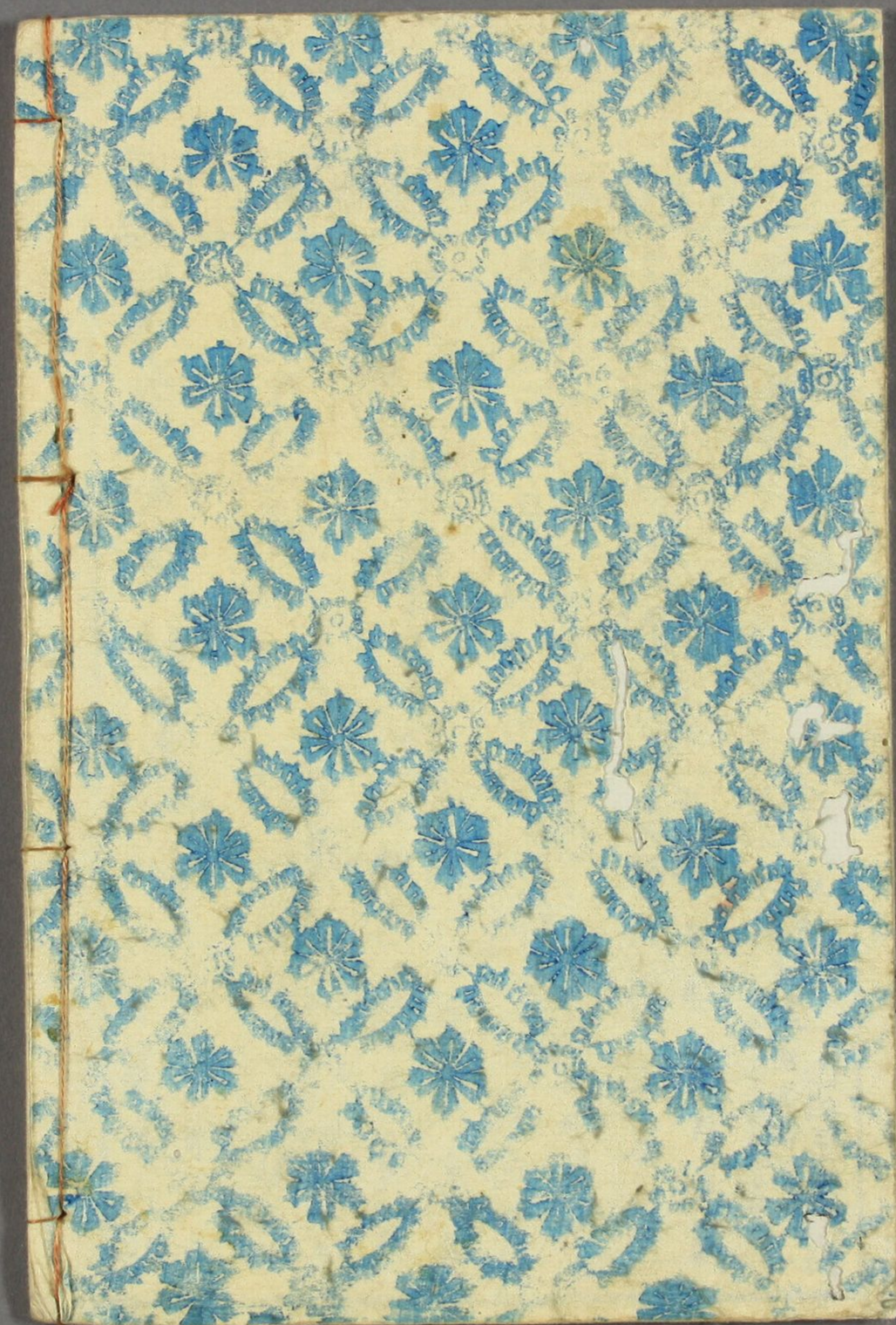
品定五人娘 六編 七編 京山作 芳虎画

結鹿浮紺屋説 三編 四編 花咲作 豊國画

名古屋山 濡燕猶妻紙 五編 調布作 揃同画

豆利侑手深巷 十九編 二十編 松亭金水作 梅蝶樓國貞画

造榮櫻義紙 十編 梅彦作 芳虎画



庄 地本錦絵問屋 江戸中橋廣小路 庄兵衛改 山田屋庄次郎